



JENESYS2024 日本・インドネシア若手外交官・若手行政官の海洋交流（招へい）の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】2025年2月18日から25日まで、インドネシアの海洋水産省と海洋警察の関係者16名が訪日しました。この訪問は、日本の海上保安分野と水産分野の取り組みを学び、日本の関係者と意見交換を行うことで、日本への理解を深め、両国の連携強化を促進することを目的に実施されました。一行は、東京都と北海道を訪れ、海上保安や水産に関する講義や視察、ホームステイを通じて日本文化を体験し、日本での学びをSNSなどを通じて広く発信しました。

【参加者】インドネシアの海洋水産省関係者、海洋警察関係者 合計16名

【訪問地】東京都16名、北海道16名

【日程】

このプログラムは、JENESYS2024 日本・マレーシア海洋交流（若手社会人招へい）と一部合同で実施しました。

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

2月12日（水曜日） 【来日前オリエンテーション】

来日までの指定期間 【課題学習（動画配信）】「事前オリエンテーション」「日本理解講義」「日本文化理解（京都）」「日本語」

■ 招へいプログラム：

2月18日（火曜日） 成田国際空港より入国

【来日時オリエンテーション】

● 海洋水産省関係者グループ

【視察】浅草

【テーマ関連講義】「水産庁の組織概要について」

講師：水産庁 資源管理部国際課 海外漁業協力室 課長補佐 飯田 健 氏

● 海洋警察関係者グループ

【テーマ関連講義】「海上保安庁概要」

講師：海上保安庁総務部国際戦略官 国際戦略官付企画係長 岩下 竜介 氏

2月19日（水曜日） 【テーマ関連視察】水産庁 漁業調査船「開洋丸」

【テーマ関連視察】海上保安資料館横浜館

2月20日（木曜日） 東京都から北海道へ移動

【文化体験】着付け体験

2月21日（金曜日） 【表敬訪問】北海道 総合政策部国際局国際課長 木下 博史 氏

【視察】ガイドによる小樽運河周辺散策、小樽運河クルーズ

【ホストファミリー対面式】

2月22日（土曜日） 【ホームステイ】

2月23日（日曜日）	【ホストファミリー歓送会】 北海道から東京都へ移動
2月24日（月曜日）	【ワークショップ】報告会準備(訪日成果のとりまとめ、SNS発信状況等確認、 帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成) 【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表
2月25日（火曜日）	成田国際空港より出国

2. 記録写真

招へいプログラム

	
2025年2月18日【テーマ関連講義】「水産庁の組織概要について」（海洋水産省関係者グループ）	2025年2月18日【テーマ関連講義】 「海上保安庁概要」（海洋警察関係者グループ）
	
2025年2月19日【テーマ関連視察】水産庁漁業調査船「開洋丸」	2025年2月19日【テーマ関連視察】 海上保安資料館横浜館
	
2025年2月20日【文化体験】着付け体験	2025年2月21日【表敬訪問】北海道 総合政策部 国際局国際課長 木下 博史 氏

2025年2月21日【視察】小樽運散策・クルーズ	2025年2月21日【ホストファミリー対面式】
2025年2月22日【ホームステイ】	2025年2月23日【ホストファミリー歓送会】
2025年2月25日【報告会】	2025年2月25日【報告会】集合写真

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 行政官（国家警察関係者）

海上保安資料館横浜館で、かつて日本の海域で起きた歴史について学びました。

北朝鮮の工作船の存在を示す証拠品として、博物館の中央には海底より引き上げられた工作船が展示されていました。それと共に事実の裏付けとなるビデオ資料により、これは実際に起きた事であると来場者が理解できるようになっていました。私たち来場者は工作船に恐れることなく立ち向かった海上保安庁に感動しました。

また、ホームステイでは私と同じ趣味を持つ家族に恵まれ、朝起きてから寝るまでの日本の生活様式を学びました。ホームステイ先の近くの森にある公園でフクロウを直接見ることができました。北海道博物館に連れて行ってもらい、北海道の歴史について多くを学びました。博物館には多くの歴史的遺物が保管され、公開されています。これは非常に興味深く、思い出に残る経験でした。

◆ 行政官（国立搜索救助庁関係者）

漁業調査船「開洋丸」を視察できて一番良かった点は、船長と乗組員の方々が親切に迎えてくださり、開洋丸の仕様、定員、能力、活動、最新技術などについて詳しく説明していただいたことです。

◆ 行政官（運輸省関係者）

日本には規律、時間厳守、規則順守の文化があり、海上を含む輸送の安全に大きく貢献しています。組織化された作業システム、勤勉な労働倫理、清潔さと環境に対して責任を持つという意識により、日本は港湾管理と海上安全の模範となっています。インドネシアはこの文化を見習うことで、より先進的で持続可能な海事分野の管理を改善し、スケジュールの正確性を確保し、安全基準を遵守し、きれいな海を維持することができます。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 講師

プログラム参加者からは、積極的にご質問いただき、インドネシア政府の方々が日本政府の取り組みに強い関心を抱いていることが分かりました。インドネシアとは、海外漁業協力など、水産分野における両国間での様々な交流がある中、今般、現場での職務に従事されるインドネシア政府職員の皆様から、インドネシア政府と日本政府との取り組みの違い、水産庁の組織や取り組み、関心事項などを拝聴できたことは貴重な機会であったと思っております。引き続き、インドネシアの方々も含めた海外の関係者の方々との交流について、丁寧に対応していきたいと考えております。

◆ ホストファミリー

初めての朝、出かける前に一緒に雪かきをしてもらったら、翌日の朝も何も言わなくても外に出て一緒に雪かきをしてくれたので感激しました。縦に長い島国の日本に対して横に長い島国のインドネシアの色々な事が知れて興味深かったです。ゆっくりお話を聞けてお部屋もゆったり使ってもらえたと思います。

◆ ホストファミリー

いつも通り日常生活の雪掻きを一緒にしたり、中央卸市場の朝市やオリンピックミュージアム・大倉山リフトに乗ったりしました。雪のない国からいらっしゃったので、雪掻きは観光旅行では経験できないだろうと思い、お願ひしたら楽しんでやってくれました。インドネシア語を少し話せるようになりたいです。今回はゲストの一人は全く日本語勉強したことがないにも関わらず、JICE から支給された日本語会話帳のみの勉強でかなり日本語を理解していたのには驚きました。

◆ 視察先関係者

インドネシアの文化や資源、人間性などにとっても興味を持ちました。素敵なお土産もいただきましたので、これをきっかけにインドネシアについても調べてみます。すてきな機会をありがとうございました。

5. 参加者の对外発信（抜粋）、報道記事等

<p>Kegiatan akuu setelah 2 hari di Tokyo, Jepang dalam rangka mengikuti program JENESYS yang diselenggarakan oleh Pemerintah Jepang. Selama di Tokyo, kami mendapatkan lecture tentang Japan Coast Guard. Selain itu kami juga mengadakan kunjungan ke Kapal Kaiyomaru dan juga museum JCG di Yokohama. Banyak pengetahuan yg kami dapat, seperti masalah apa saja yg dialami oleh pemerintah Jepang dalam mengamankan laut teritorial mereka beserta dg hasil alamnya dan juga bagaimana mereka mengatasi masalah tsb. Kami juga mengetahui beberapa hal yg mungkin dpt dipertimbangkan oleh Indonesia sebagai 1 langkah dalam mengamankan maritim negara ini. Salah satunya dg memiliki/menambah armada kapal survey dan pengawak yg memadai. Selama ini kita hanya memiliki kapal patroli saja namun kurang memperhatikan utk adanya kapal survey spt kapal Kaiyomaru. #Jenesys_Asean #Jenesys2024</p> 	 <p>Kegiatan hari pertama JENESYS 2024 Indonesia - Japan Marine related Exchange for Youth Diplomat and Governmental Official (Invitation Program) Tokyo, 18 Februari 2025 :</p> <ol style="list-style-type: none"> Orientasi di Kantor JICE di Shinjuku dengan Koordinator Mrs. Kaoru Kawanishi dari JICE Observasi di Distrik Asakusa, salah satunya adalah mengunjungi kuil Senso-ji yang merupakan kuil Buddha kuno dan merupakan kuil tertua di Tokyo dan pada masa sekarang menjadi salah satu destinasi favorit di Tokyo untuk warga lokal maupun mancanegara Berkunjung ke Kantor Kementerian Pertanian, Kehutanan, dan Perikanan Jepang, di sini kami belajar tentang tentang ikan caviar negara Jepang dan aman mengonsumsi ikan caviar. Sedangkan kelanjutan sebagaimana kita ketahui Jepang sendiri memiliki wilayah laut yang lebih luas daripada dorongan dan merupakan negara maju terutama dalam inovasi dan teknologi. Kunjungan kali ini dijelaskan secara dengan sangat baik dan ramah oleh Mr. Ida dari Japan Fisheries Agency.
<p>2025年2月20日 (Facebook) 行政官 社会人（海上保安機構関係者） 日本政府により実施されている JENESYS プログラムに参加し、東京で海上保安庁について講義を受けました。漁業調査船「開洋丸」、海上保安資料館横浜館の視察を通して何を経験し、日本海域の安全のためにどのような対応をしてきたかを知りました。それを踏まえてインドネシアで検討しなければならないことは、漁業調査船を増やし、能力のある乗組員を配置することだと感じました。現在インドネシアには巡視船しかない為、開洋丸のような漁業調査船には注目してきませんでした。</p>	<p>2025年2月20日 (Instagram) 行政官 社会人（海洋水産省関係者） 農林水産省の庁舎を訪問しました。水産庁の飯田氏はフレンドリーな方で、日本の海域は国土より広大であり、技術イノベーション先進国として持続可能な漁業管理をどのように実施しているか、丁寧に説明してくださいました。</p>
 <p>Otaru Canal (小樽運河, Otaru Unga) adalah sebuah kanal bersejarah di kota Otaru, Hokkaido, Jepang. Dibangun pada awal abad ke-20, kanal ini dulunya berfungsi sebagai jalur transportasi bagi kapal-kapal kecil yang membawa barang dari pelabuhan ke gudang-gudang di sekitarnya.</p> <p>Saat ini, Otaru Canal menjadi destinasi wisata populer dengan pemandangan romantis, terutama saat malam hari ketika lampu-lampu klasik menerangi kanal. Di sepanjang kanal, terdapat gudang-gudang tua yang telah diubah menjadi restoran, kafe, dan museum. Setiap Februari, kanal ini menjadi lokasi utama Otaru Snow Light Path Festival, di mana lilin-lilin dalam es menerangi suasana musim dingin yang indah.</p> <p>@jice_exchange #jenesys_asean</p> <p>2月21日 · 翻訳を見る</p>	 <p>"Mengenakan kimono dan yukata bukan hanya tentang pakaian, tetapi juga memahami sejarah, filosofi, dan keindahan budaya Jepang. Setiap lipatan dan simpul obi mengajarkan kesabaran, ketekunan, dan penghormatan terhadap tradisi-nilai-nilai yang juga bisa kita adopt dalam budaya Indonesia. Sebuah pengalaman berharga yang menginspirasi! 🇯🇵 #jenesys_asean</p> <p>2月24日 · 翻訳を見る</p>

<p>2025年2月21日 (Facebook)</p> <p>行政官 社会人 (海洋水産省関係者)</p> <p>小樽運河は日本の歴史に残る運河の一つで、20世紀に北海道小樽市に造られました。</p> <p>港から付近の倉庫に物を運ぶために小さな船が使われ、その水路として利用されました。現在の小樽は、特に夜のロマンチックな夜景で有名な観光スポットとなっています。</p> <p>運河に沿って並ぶ倉庫は、現在はレストラン、カフェ、博物館になっています。</p>	<p>2025年2月24日 (Instagram)</p> <p>行政官 社会人 (海上警察関係者)</p> <p>着物と浴衣の着付け体験をしました。それだけではなく、歴史、哲学、日本文化の美しさなどにも触れました。着物の折り目やシンプルな帯にも伝統を尊重する姿勢、繊細さ、敬意が込められていることを学び、インドネシアの文化にも取り入れるべきことだと思います。インスピレーションが湧く貴重な経験となりました。</p>
 <p>日本・インドネシアの若手海洋行政官交流 (令和6年度対日理解促進交流プログラム「JENESYS2024」)</p> <p>令和7年3月3日</p> <p>[Dalam Indonesia]</p> <p>日本政府は、日本とインドネシア等の国、地域との間で、将来を担う若手人材を日本へ招きたい。政治、経済、社会、文化、歴史、外交政策等に関する対日理解の促進を通じて相手の理解を深めることを目的にした「JENESYSプログラム」(対日理解促進交流プログラム)を実施してきました。</p> <p>今回、第三回が開催され、多くの活動が企画され、3月4日から5日まで、インドネシアの若手行政官が相手の協力機関をより一層活性化したことを見せて感じることが出来ました。また、今後それぞれの国の行商をリーダーとして置いていくべき機運を醸成することも出来ました。引き続き、印尼の海洋分野の交換は連携協力関係を継続していきます。</p> <p>本プログラムを通じて、日本とインドネシアのその後の海の安全保障を担う若手行政官が相手の協力機関をより一層活性化したことを見せて感じることが出来ました。また、今後それぞれの国の行商をリーダーとして置いていくべき機運を醸成することも出来ました。引き続き、印尼の海洋分野の交換は連携協力関係を継続していきます。</p> <p>海洋安全保育にかかる講義の様子</p> <p>水産庁海事局訪問の様子</p>	<p>Strengthening Maritime Cooperation, 16 Indonesian Youth Take Part in JENESYS Program in Japan</p> <p>Celebrating the 16th anniversary of the JENESYS Program, 16 Indonesian youth participants took part in various activities in Japan, including a visit to the Japanese Maritime Self-Defense Force's Kaiyo Maru ship.</p>  <p>Cultural visits in Hokkaido, Japan. (Photo: Embassy of Japan in Indonesia)</p>
<p>2025年3月3日 (在インドネシア日本国大使館 HP)</p> <p>「令和6年度対日理解促進交流プログラム「JENESYS2024」日本・インドネシアの若手海洋行政官交流プログラムを紹介」</p>	<p>2025年3月4日 (インドネシア公共放送機関 : RRI)</p> <p>「海洋協力の強化、インドネシアの若者 16人が日本の JENESYS プログラムに参加」</p>

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

訪問地：東京都、北海道 全2グループ発表

海洋水産省関係者グループ																		
 <p>JENESYS2024</p>	 <p>KAIYO MARU & JCG MUSEUM</p> <p>Kaiyo Maru adalah kapal riset/survei Jepang yang bertugas untuk melakukan penelitian kelautan dan penelitian. Museum JCG adalah museum yang menampilkan sejarah dan aktivitas Badan Kemanan Laut Jepang yang berada di Yokohama.</p> <p>Kaiyo Maru</p> <p>Japan Coast Guard Museum</p>	 <p>PEMBALIKAN SAMPAH DI KAPAL</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>Regangan Apa (What)</th> <th>Status Pelaksanaan (Who)</th> <th>Untuk Mengurangi Dikemasan (In What)</th> <th>Kapan Kapalan Harus Melakukan Pemuliharaan (When)</th> <th>Dimensi Pemuliharaan (Where)</th> <th>Evaluasi Pemuliharaan (How)</th> <th>Adopsi ke Program</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Pembalikan Sampah Di Kapal</td> <td>All Crew</td> <td>Untuk Mengurangi Dikemasan Kemasan Plastik</td> <td>Seiring Kapal</td> <td>Di Kapal</td> <td>Pengaruhnya Sangat Besar</td> <td>Bantuan Dikirimkan ke Perusahaan Pengolahan Sampah di Jepang</td> </tr> </tbody> </table>	No	Regangan Apa (What)	Status Pelaksanaan (Who)	Untuk Mengurangi Dikemasan (In What)	Kapan Kapalan Harus Melakukan Pemuliharaan (When)	Dimensi Pemuliharaan (Where)	Evaluasi Pemuliharaan (How)	Adopsi ke Program	1	Pembalikan Sampah Di Kapal	All Crew	Untuk Mengurangi Dikemasan Kemasan Plastik	Seiring Kapal	Di Kapal	Pengaruhnya Sangat Besar	Bantuan Dikirimkan ke Perusahaan Pengolahan Sampah di Jepang
No	Regangan Apa (What)	Status Pelaksanaan (Who)	Untuk Mengurangi Dikemasan (In What)	Kapan Kapalan Harus Melakukan Pemuliharaan (When)	Dimensi Pemuliharaan (Where)	Evaluasi Pemuliharaan (How)	Adopsi ke Program											
1	Pembalikan Sampah Di Kapal	All Crew	Untuk Mengurangi Dikemasan Kemasan Plastik	Seiring Kapal	Di Kapal	Pengaruhnya Sangat Besar	Bantuan Dikirimkan ke Perusahaan Pengolahan Sampah di Jepang											

【成果の発表】

◆ 訪日全般の学び :

浅草では古い街並みを楽しみました。北海道庁で外国人材の活用について講義を受けました。着物着付け体験、ホームステイでは、日本人の生活様式などを学びました。

◆ テーマの学び :

水産庁講義で日本の水産資源保全のための取組みについて、漁業調査船「開洋丸」視察で調査船の活動について、海上保安庁横浜博物館では、日本の海上保安の取組みを学びました。

【アクション・プラン】

海洋資源保護のため、下記のアクション・プランを実施します。

- ・グループ全員ですべての乗組員が勤務する船でごみの分別を行います。(毎日)
- ・「海の日キャンペーン」と題し、地元の漁師などと共に海岸の清掃活動をします。(月1回)
- ・政府及び海岸付近住民と共に、マングローブを植林します。(月1回)
- ・漁師に向け、船の安全確保のためのステッカーを活用します。(毎日)
- ・十分に活用されていない先端技術を利用する目的でドローンを活用します。(暫定)
- ・学校で海洋資源保護のための啓もう活動を実施します。(暫定)

海洋警察関係者グループ



【成果の発表】

◆ 訪日全般の学び :

日本で実施されているごみの分別や茶道などを含む伝統文化について学びました。

◆ テーマの学び :

海上保安庁の取り組みについて、漁業調査船「開洋丸」視察で調査船の活動について、海上保安庁横浜博物館では、工作船の展示を見ながら当時の対応について学びました。

【アクション・プラン】

日本で学んだ習慣や文化、特にゴミの分別に関する点につき SNS を通じてビデオ、写真、記事などの形で発信します。グループのメンバー全員がそれぞれ勤務している場所から、一般人、自身の周りの人たちを対象に帰国後 3か月、3月半ば頃から 5月ごろに向けて、多くの人たちがアクセスできる SNS を通して発信していく予定です。

2025 年 2 月から職場の上司に SNS を使った活動の許可を取り、3 月頃から発信のためのコンセプト作りを行い、4 月から発信を開始して 5 月に成果報告を実施します。

実施団体 : 一般財団法人日本国際協力センター (JICE)